



洋上アルプス

No.349 2024年9月5日



発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等はこちら
https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL 0997-42-0331

令和6年度 第1回 屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWG合同会議を開催 (7月25日～26日)

令和6年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会とヤクシカ・ワーキンググループ（以下ヤクシカWG）及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議が、屋久島環境文化村センターにおいて開催されました。

7月26日の科学委員会では、①前回会議の議論整理、②屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況の実績及び予定、③令和5年度世界遺産地域モニタリング調査等結果の概要、④令和6年度世界遺産地域モニタリング調査等計画、⑤令和6年度第1回ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議、⑥屋久島世界遺産地域モニタリング計画の改定等について関係機関より報告され、項目ごとに議論されました。モニタリング計画の策定については、評価指標と評価基準との関係、気象など測定項目では欠測が少ないことなど、今後のモニタリング方法やデータの取り方を含め活発な議論が行われました。委員からは、「そろそろ若返りも必要では」「検討してもらいたい」との意見も出されました。

7月25日のヤクシカWGでは、①ヤクシカの生息状況等、②捕獲等の被害防止対策、③森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング等、④特定エリアの対策（西部地域）等について、5年度の結果や



ヤクシカWGで挨拶する池田計画保全部長

6年度の事業計画が関係機関より報告され議論が行われました。

ヤクシカの生息状況について、推定個体数は島全体として令和4年度と比較し増加しているとの報告があり、特に、島の西部と西南部の地域で密度が増えているとのことでした。糞粒法による調査は誤差が生じやすいため単年度での判断で増加に転じたとするのは厳しいとの意見なども出されました。一方で捕獲数は、年々減少していることが報告され、捕獲を実施している機関の実情や、より効率的な捕獲等について議論されました。

令和6年度屋久島レクリエーションの森保護管理協議会総会の開催（8月5日）



総会の様子（屋久島町議会棟）

令和6年度の屋久島レクリエーションの森保護管理協議会総会が屋久島町役場で開催され、令和5年度の活動実績及び決算報告、令和6年度の活動計画及び予算の提案等がなされ承認されました。

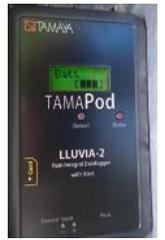
また、役員改選が行われましたが全員が再任となりました。白谷雲水峡・ヤクスギランドの年間入場者数は、令和2～3年度は新型コロナウイルス関連で6万人台と半減しましたが、5類感染症に変更された令和5年度は、約12万人まで増加しています。新規事業として白谷小屋でのコンポスト化の試行、巡視時の著名木樹勢状況の確認などの計画が承認されました。

また、昨年と今年7月末現在の山岳遭難事故発生状況等について、屋久島警察署から情報提供があり、改めて登山に対する安全確保が重要であるとの認識に立ち、今後においても、引き続き登山者等への呼びかけが必要だと感じました。

雨量データ記録装置の機器交換が完了（7月3日）

当保全センターでは、気象モニタリング調査として雨量計と温度計あわせて14台を島内主要箇所に設置しています。これは、気候変動が遺産地域等の自然環境に与える影響などを把握するための基礎データ収集であり、今後も継続して観測を行っていきます。

データ記録装置については、厳しい自然環境や経年劣化により誤動作や不具合も発生していたため、2023年より新しい機器に順次交換していましたが、ヤクスギランドの雨量データ記録装置を交換し、すべての機器の交換が完了となりました。新しい装置の電源寿命は長く、バッテリー不具合によるデータの欠損等も減ることが期待され、スムーズなデータ収集を行い、森林生態系への研究等に資するとともに、情報提供にも努めることとしています。



新しいデータ記録装置

安房中学校森林教室を実施（7月11日）

屋久島森林管理署と連携し安房中学校2年生を対象に森林教室を実施しました。小杉谷集落跡地の悪天候が予想されたため、安房貯木場と（株）屋久島地杉加工センターを見学後、当保全センターに移動し、講義や体験活動を行いました。安房貯木場では、春牧森林事務所森林官からヤクスギ土埋木などについて説明があり、生徒は初めて見る土埋木を興味深く見学していました。

（株）屋久島地杉加工センターでは、地杉と内地のスギの違いなどを説明後、製材の様子を見学しました。生徒は木材がどのように加工され、私達のもとに届いているのか理解してくれたと思います。最後に製材時に出るおがくずをお土産としていただき、地杉のいい香りに癒されていました。

当保全センターでは、林業遺産や小杉谷の歴史について、初公開の土埋木搬出の映像の鑑賞をし



土埋木について説明する職員 生徒による広葉樹の丸太切り体験

ながら説明を行いました。言葉や資料だけでなく、映像を交えることでより一層、理解を深めてもらえたと思います。丸太切り体験では地杉だけでなく、数種類の広葉樹も用意し、屋久島に自生する樹木の紹介を行いました。丸太切りはとても盛り上がり、樹木に触れ合ってもらえる良い機会になったと思います。

今後も様々な森林教室を実施し、屋久島の子どもたちに屋久島の森林や林業について学びを深めてもらえるよう、努めてまいります。

令和6年度「屋久島森の塾」を開催（8月2日）

屋久島森の塾は、国有林や屋久島の森林・林業をベースとした森林環境教育について屋久島町内の教職員の方々に理解と認識を深めていただきたいという目的で、平成30年度から毎年開催しています。令和4・5度と開催できなかったため、3年ぶりの開催となり、小・中学校合わせ、20名の方にご参加いただきました。

当日は荒川登山口に集合し、携帯トイレや注意事項等の説明を行ったあと、小杉谷小・中学校跡に向け出発しました。途中、林業遺産についてのクイズや植物について説明を行いながら、現地に向かいました。到着後、午前中は、「屋久島森林生態系保全センターの概要」、「林業遺産について」や「小杉谷の歴史について」の説明をクイズの出題を交えながら行いました。午後からは、近くの散策路にて、当時の森林軌道跡、炭窯跡を含む当時の生活の痕跡、屋久島の花崗岩の特徴や屋久島でよく見られる樹木についての説明を行いました。午前中の座学の復習を、現地にて行うことができ、林業遺産や小杉谷の歴史についてより理解が深まったと感じています。



小杉谷小・中学校跡での講義



散策中の参加者

散策終了後は、小杉谷小・中学校跡に戻り、丸太切り及び木工体験を行いました。丸太切り体験では、数種類の樹木から伐りたい樹木を選んでもらい、好みのサイズにノコギリで伐ってもらいました。木工体験では、箸置きかコースターを選んでもらい、小刀やサンドペーパーを使用し、思い思いの形に仕上げてもらいました。普段なかなか使う機会の少ない道具を使い加工することで、木の香りや木材を身近に感じてもらうことができたと感じています。

参加者からのアンケートには、「歴史がとても勉強になった」、「体験活動も楽しかった」や「様々な視点から小杉谷の話がきくことができて良かった」など多くの感想をいただくことができました。これらの意見を踏まえ来年度も「屋久島森の塾」を開催したいと考えています。

「ヤクスギ林固定試験地より」 ④花山

高嶋 敦史 (琉球大学農学部 与那フィールド 准教授)

第4回目となった今回紹介するのは「花山」固定試験地です。これまで紹介した3箇所の固定試験地はいずれも1973年にヤクスギランド内に設定されていましたが、花山試験地は1年遅れの1974年に花山歩道沿いに設定されました。標高は全5箇所の試験地の中で最も高い1,250m付近に位置し、試験地の中に花山広場が含まれます。また、全5箇所の試験地の中で唯一世界自然遺産登録地域の中に設定されています。

花山試験地は調査に行くのが非常にたいへんで、大川林道沿いの花山歩道入口から2時間半～3時間の登山が必要です。そのため日帰りで調査に行くことが難しく、1.0haの面積を調査するにはどうしても10人程度のチームで3泊程度の山中泊が必要になります。花山試験地の樹木の測定はこれまで1974、1992、2003年に実施されていますが、上記のような理由もあってまだ4回目の調査が実施できていません。最後の調査からすでに21年が経過しているのです、そろそろ測らないと・・・と私も頭を悩ませているところです。ただし、試験地に着いてしまえば、地形は全体的に平坦なので調査はスムーズに実施できます。試験地のすぐ外には水場もあるので、給水も容易です。

これまでの調査の結果からは、針葉樹ではスギの優占度が高く、胸高直径40～90cmの幹が多いことがわかっています。また、モミ、ツガ、ヒノキの混交が少なく、これらの特徴はヤクスギランドの「小花山」試験地とよく似ています。広葉樹では、高木層にヤマグルマが多く、その中のところどころにハリギリの大木が分布しています。また、亜高木層にはシキミが多く、標高1,100m以下の小花山、二人だけの小径、白谷に多く出現するサカキはあまり見られません。低木層にハイノキやサクラツツジが多いのは、他の4試験地と同様です。

そして、試験地内のスギの切株の数や大きさは、天文の森、小花山、白谷と大きな違いはありませんでした。このことから、花山試験地付近のヤクスギ林も、江戸時代ごろに平均的な伐



比較的に細くて通直なスギが多い



試験地のすぐ下にある水場

採圧を受けていたということが言えるでしょう。

私は、花山試験地やその周辺は「ヤクスギの美林」という表現が似合う森だと感じています。5箇所のヤクスギ林固定試験地の中で、唯一世界自然遺産登録地域内に設定されているという側面もあることから、何とかこの試験地の調査を継続していきたいと考えています。

※野営（山中泊）は、国有林内（花山広場など）では原則禁止です。鹿之沢小屋など指定された避難小屋等をご利用ください



屋久島中央部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和4年度）

[標高1800mプロット(山腹の歩道・階段脇)] 確認種数：16種(平成29年度：15種)

調査結果の概要 密生したヤクシマダケ群落で、その中にアセビ、ヤクシマシャクナゲが点在する。群落内はほとんど陽光が差し込まず、植生が出現するのは歩道脇にあるわずかな空間に限定される。その中でも暗い箇所にはアセビの稚樹、コミヤマカタバミ、明るい箇所にはヤクシマムグラ、ヤクシマコオトギリ等、階段脇の傾斜にはシダ類、スゲ類が出現する。ヤクシマダケは岩や歩道脇には草丈の低いものが張り出し、所々でシカの食痕が確認される。



標高1800mプロットの概況



標高1800mプロットの群落縦断面図

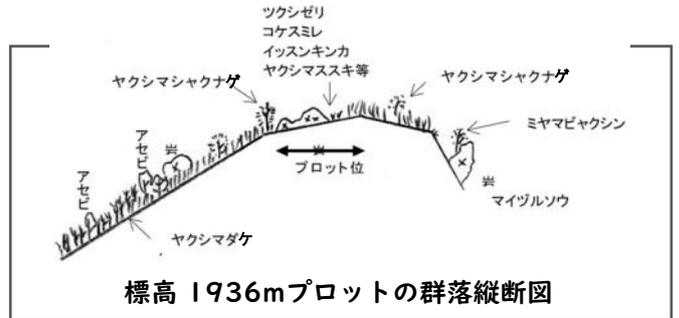
[標高1936mプロット(宮之浦岳山頂)] 確認種数：19種(平成29年度：15種)

調査結果の概要 大岩やヤクシマシャクナゲを含むヤクシマダケ群落である。ヤクシマダケの生長が著しく、草高・被度が増加して大岩とヤクシマダケの間の空間・照度が狭まり、キバナノコマノツメ等の着生植物は確認されなかった。ヤクシマシャクナゲとヤクシマダケの間の移行帯にはコメススキ群落が形成され、その周辺を中心に5種の新規確認があった。スゲ属sp. にはシカの食痕が見られる。山頂付近で、登山者の靴底に付いて運ばれたとされるスズメノカタビラは、登山者の踏圧のかからない箇所数株まとまって確認された。



H19(15年前)のプロット

R4(本年度)のプロット



標高1936mプロットの群落縦断面図

グリーンサポートスタッフ(GSS)巡視記録より ～花と景色～

ヒメツルアリドオシ



ヒメツルアリドオシは7月12日、宮之浦岳までのパトロール中に見かけました。

当日は雨が降っていて、コケが生き生きとしている中に白く可憐な花を見つけることができました。秋には直径3mmくらいの楕円形の赤い実をつけます。屋久島の登山道ではよく見かける花です。

ホツツジ



ホツツジは8月7日、石塚山までのパトロール中に見かけました。

名前の由来は、花序の形が穂状だから、または細かい枝が密になる様子からとのこと。標高1,300m以上の高いところに分布しており、岩場によく生育しています。